

# 新発見 本町下高松通出土の伏見人形土型について

立命館大学文学部教授 木立雅朗 (きだち・まさあき)

## はじめにー伏見人形の歴史ー

「伏見人形」のはじまり

誰がはじめたか？誰が広めたのか？ 土師器作り、瓦作り説、京焼  
いつからはじまったか？ 17世紀中頃か？

「伏見人形」の影響力

各地の土人形に影響、欽古堂亀祐の活躍

伏見人形の衰退

「明治以降の西洋化」、「交通網の変化」

伏見街道（本町通り）の移り変わり

江戸時代から続く伏見人形窯元・丹嘉

## 1. 窯の発見

伏見人形・丹嘉の窯(広島県福山市・日本郷土玩具博物館に移築保存)

『広益国産考』(1859年)の伏見人形の窯

各地の土人形の窯(小幡・弓野・蒲地・博多など)

『京都陶磁器説図』の京焼の素焼き窯

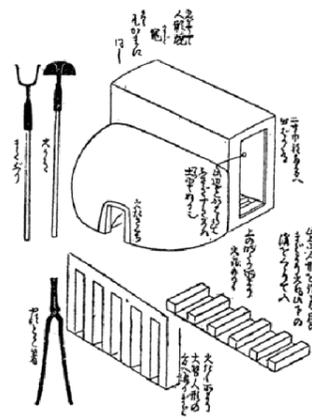
岩倉木野の土師器窯

発掘された岩倉幡枝の土師器窯

本町下高松通で発掘された窯の性格



丹嘉の窯



『広益国産考』の窯



発掘された窯 61

伏見人形の窯（現存する窯、絵図の窯、発掘された窯）

## 2 大量の型の発見

日本最大の質と量（原型少なく、型がほとんど）

年代が刻まれた型

明治後半（～大正？）の流行の一端を物語る貴重な資料（いつ捨てられたのか？）

体験教室に使える貴重な歴史教材



西行さん



桃抱き猿



お相撲さん 1



お相撲さん 2



お相撲さん 2 の拡大



本町高松通から出土した伏見人形の型



童子(表)

童子(裏)

表と裏を合わせる



招き猫(手・耳は後付け)



犬



型から抜いて表裏を付ける様子



出土した型で土面子を製作する様子

### 3. 発掘成果からみえてきたこと

「日本最古」「全国の土人形発祥の地」と言われるが、謎の多い「伏見人形」

→土中から全く新しい資料が大量に現れた

「綿治」(中村屋治兵衛)の縮小、もしくは廃業に伴う廃棄

捨てられた型・捨てられなかった原型—原型はどこに?

伏見人形の窯と土師器窯・京焼素焼き窯との共通性を再確認

江戸時代に比べて大型化した土人形

→時代の流れにのった新たな展開か。土人形の「近代化」。

今に続く伝統工芸の移りかわりを直接示す数少ない資料

→土人形から磁器人形への移り変わり

(五条坂・かわさき商店所有の磁器人形、道仙化学製陶所の調査から)

### 4. 近現代遺跡の発掘としての意義

文化庁の指導とその受けとめ方

近世以降の遺跡の取り扱い

地域にとって重要な遺跡とは何か?

「京都」の発掘事情から見た本遺跡の調査

近代遺跡の発掘調査—京都迎賓館(公家町跡)の発掘調査に次ぐ画期的発掘

「1200年前」の都か? 「1200年続く」都か?

歴史は足元から

近現代遺物の強み

通常はありえない体験実習

今でも使える資料—「使える遺物」

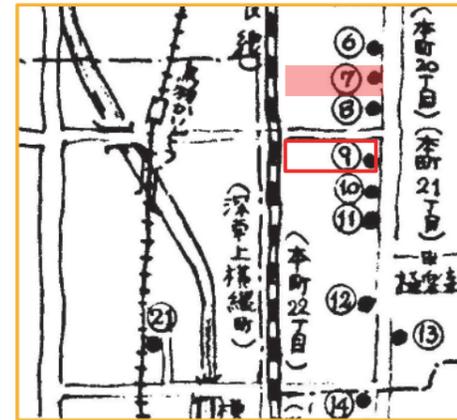
現代と過去を直接つなぐ近代—書き残されない歴史を明らかにできる物質資料

### おわりに

「古い」のではなく、「今に繋がる」歴史

伝統産業の「伝統化」の過程

廃業した店、生き残った店



- ⑥菊屋(岡本)
- ⑦綿治(中村屋治兵衛)
- ⑧森又
- ⑨ふくち屋(林)
- ※明治末期に転業。  
現在林荒物店。
- ⑩上野
- ⑪倉島亀吉
- ⑫丹嘉(大西新太郎)
- ⑬奥村万次郎
- ⑭保寿軒(石村弥七)

□ 発掘調査地点  
■ 綿治(型に書かれた名前の店)

奥村寛純編1976 『伏見人形の原型』に記載された  
明治末期～昭和初期における伏見人形店 分布図